



『魔法の樽：他十二篇』

マラマッド／阿部公彦訳 岩波書店／岩波文庫(赤)

本 館	請求記号：X/080/I95R/Mal	資料ID：701351991
神田分館	請求記号：X/080/I95R/Mal	資料ID：701365876



『自省録』

マルクス・アウレーリウス／神谷美恵子訳 岩波書店／岩波文庫(青)

本 館	請求記号：X/080/I95B/Mar	資料ID：700982663
神田分館	請求記号：X/080/I95B/Mar	資料ID：700977069

国際コミュニケーション学部教授 宮本 文

図書館の本棚を前にして圧倒されることはないだろうか。時空を超えて惜しみなく知や経験が自分の前にひらかれているのだという恍惚と、同時に高揚した気分をあっさりと挫く劣等感に眩暈を覚えたことがある人も多いだろう。

マラマッドの短編小説「夏の読書」（『魔法の樽：他十二篇』所収）はこのような葛藤を見事に描いた名作である。高校中退して無為徒食の青年ジョージは何事も先延ばしにする質である。惨めさに苛まれながらも、まだ自分は本気を出していないと夢に浸る。近所に住むカタンザーラさんに何気なく言ってしまった「100冊本を読む」という宣言がきっかけで、ジョージは次第に追い詰められていくというのが大筋である。最後の場面では、秋になったある日、ジョージがニューヨーク市立図書館の本棚の前で、震えながら立っている。そしてどうしたのかはぜひ小説を読んで欲しい。

実は今回のメインはアウレーリウスの『自省録』である。岩波文庫の厳つい書棚に弾かれた経験を持った人はぜひ最初の一冊として『自省録』を手にとって欲しい。2世紀のローマ皇帝が書いた哲学書なんて難攻不落に思える。しかしながら、本書は瞑想の記録であり、アウレーリウスがまず誰よりも自分に対して簡明直裁に問いかけ呼びかけた言葉なのである。だから、その言葉は驚くほど近しく厳しく優しい。まだ躊躇している人へ。「思い起せ、君はどれほど前からこれらのことを延期しているか…時は過ぎ去り、君も過ぎ去り、機会は二度と再び君のものとならないであろうことを。」（『自省録』第二巻 四）